



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 24

2019.1.9(No.2988)

自らのロータリーストーリー
を作りましょう

第2560地区ガバナー／川瀬康裕
会長／松永一義
会長エレクト／若槻八十彦(クラブ奉仕A)
会長ノミニ／野崎喜一郎(クラブ奉仕B)
幹事 西山徳芳
S A A／渡辺良一
会計／吉井直樹
直前会長／小出子恵出

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(～はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

- 本日の出席会員数:60名中48名
内1名(名誉会員 高橋一夫さん)
- 先々週出席率:75.44%

【ゲスト】

・三条市長 國定 勇人 様

【先週のメイクアップ】

- [12.20] 三条東RCへ
・小林敏信さん、加藤紋次郎さん、
・山田富義さん、丸山行彦さん
- [12.20] 三条ローターアクトへ
・若槻八十彦さん、西山徳芳さん、
・相場弘介さん
- [12.27] 三条東RCへ
・斎藤弘文さん、木村文夫さん、
・山田富義さん、小越憲泰さん
- [1.7] 三条南RCへ
・加藤紋次郎さん、斎藤弘文さん、
・伊藤寛一さん、相場弘介さん、
・木村文夫さん



インスピレーションになろう

2018～2019年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

松永一義 会長



明けましておめでとうございます。

國定市長、本日は公務忙しい中、三条RCの年明けの行事になりました。卓話、楽しみにしております。

半年が過ぎました。前半は地区行事等、皆様には大変お世話になりました。後半は、クラブの本来の活動に戻りたい

と思います。

今年最初の理事会の報告をさせていただきます。川瀬康裕ガバナーより、「感謝」として、クラブに20万円の金封が届けられました。三条RCへ色々とお世話になりました。と御家族からの申し出です。ボックスへの一時預かりとして、社会奉仕へ使わせて頂きます。中條社会奉仕委員長と協議をし、昨年同様に絵本、遊具等を「あそぼって」に寄贈の予定です。

新会員のメンバーが多くなりました。昨年他クラブへの訪問をさせて頂き、非常に勉強になりました。先輩会員にお願いをし、まだ他クラブへのメイクアップの経験をされた事のない会員をお誘いしたいと思います。樺山先輩を中心に実行したいと思います。

故五十嵐昭一会員の息子さんに若槻さんとお伺いをして来ました。次週16日に来訪のお約束をして来ました。全会員で温かく迎えたいと思います。

幹事報告



西山徳芳 幹事

- ◎国際ロータリー日本事務局より
「1月ロータリーレートのご案内」
1月1日より 1ドル=112円 (現行)
- ◎川瀬ガバナー事務所より
「ガバナー月信1月号発行のお知らせ」
- ◎三条ローターアクトクラブより
「長久の家もちつき大会のご案内」
日 時 1月27日(日) 12:00~14:00
場 所 長久の家
- ◎地区米山記念奨学委員会より
「第2回米山記念奨学委員長セミナーのご案内」
日 時 2月2日(土) 受付・登録 12:00~
セミナー 13:00~16:00
会 場 ホテルオークラ新潟 4階
・コンチネンタル
出 席 次年度クラブ会長、現年度及び
次年度クラブ米山奨学委員長
- ◎地区ローターアクト委員会より
「第49回 ローターアクト地区大会のご案内」
日 時 3月9日(土) 12:00 登録開始
会 場 やすね(上越市)
- ◎大谷ガバナーエレクト事務所より
「2019-20年度 会長エレクト研修セミナーのご案内」
日 時 3月23日(土) 登録受付 9:30~
セミナー 10:00~
懇親会 16:00~17:30
会 場 【研修会場】
ビーチホールまがたま(糸魚川市)
【懇親会場】 ホテル國富アネックス
- ◎三条市特別支援教育研究協議会より
「ウィンターフェスティバルのお礼」
- ◎新潟県臓器移植推進財団より
「寄付金の御礼」

ニコニコBOX

川瀬康裕ガバナー

「感謝」BOXに協力致します。

高橋一夫さん

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

松永一義会長

半年有難うございました。後半年宜しくお祈りします。

國定市長、毎年恒例になりました。卓話本当に有難うございます。

渋谷健一さん

新年おめでとうございます。

私こと、大正12年亥生まれで今年8回目の年男を迎えました。本年もよろしくお祈り申し上げます。

杉山幸英さん

謹賀新年、本年もよろしくお祈り申し上げます。
年賀状代 62×60人+2

中村信一さん

新年あけましておめでとうございます。

國定市長、卓話ありがとうございます。

今年も元旦寒中みそぎ(水泳)に行ってきました。

関川 博さん

あけましておめでとうございます。

昨年は、PETS、地区協、地区大会、ゴルフ大会と皆様の尽力で大盛会となりました。ありがとうございます。

國定三条市長、今年もよろしくお祈りいたします。

西山徳芳さん

増税の軽減の一つとして、クラシックコンサート10回まで税の減免されることになりました。私の初夢です。

斎藤弘文さん

三条市長様を心から歓迎申し上げます。身体に気をつけて三条市民の為に頑張ってください。

今年1年宜しくお祈りいたします。

山田富義さん

明けましておめでとうございます。

國定三条市長、卓話ありがとうございます。

午後から、協議のため、早退します。

小出子恵出さん

明けましておめでとうございます。本年も御指導いただけますよう、よろしくお祈り致します。

斎藤真澄さん

あけましておめでとうございます。

ケガも治り久しぶりの出席です。

荻根澤隆雄さん

謹賀新年、本年もよろしくお祈り致します。

國定市長ありがとうございます。

落合孝夫さん

今年は雪が少ないといいなと、思っています。

番場太吉さん

体調不良で欠席続きました。復活しました。

樺山 仁さん

会員の皆様、改めてお目出度ございます。ロータリーの活動が楽しく、元気にしていきたいと思います。

吉井直樹さん

新年あけましておめでとうございます。

雪のない正月を迎え、八幡宮での年越祭事も例年になく寒い思いをしなくて済みました。良い一年となる事を祈念いたします。

本日國定市長様、宜しく申し上げます。

石橋育於さん

よいことがありました。スマイルボックスに協力いたします。

五十嵐晋三さん、高橋 司さん、 衛藤泰男さん、
金子俊郎さん、 中條克俊さん、 菊池 涉さん、
明田川賢一さん、船越良則さん

明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

三条市長 國定勇人様、本日は卓話ありがとうございます。

若槻八十彦さん、小林吾郎さん、 中沢真幸さん、
小林卓哉さん、 相場弘介さん、 神子島正樹さん、
野水靖之さん、 野崎喜一郎さん、梨本次郎さん、
近藤雄介さん、 丸山行彦さん、 渡辺勝利さん、
渡辺良一さん、 小越憲泰さん、 佐野勝榮さん、
中林順一さん、 加藤紋次郎さん、柳取崇之さん、
五十嵐博宣さん、石黒良行さん、 米山智哉さん

明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

三条南ロータリークラブ

前事務局員 長橋朝子さん

この度は過分なお饞別を頂戴し、恐縮に存じます。誠にありがとうございました。

長い間大変お世話になりました。南クラブの私へもいつも温かいお心遣いをいただきましたこと、多くの尊い経験、学びをいただきましたこと深く感謝申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍、三条ロータリークラブ様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

1月9日分 ¥ 292,000
今年度累計 ¥ 1,197,000

新春例会

「卓 話」

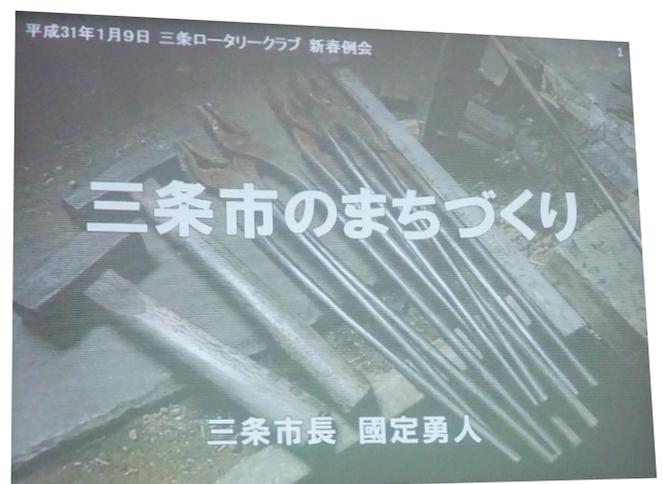
「三条市のまちづくり」

三条市長 國定 勇人 様

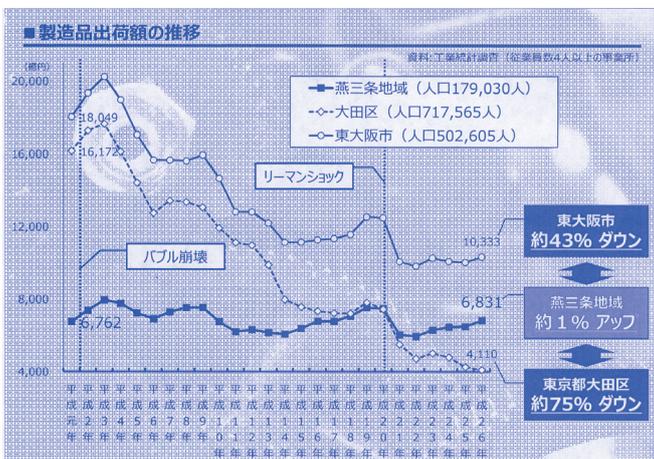


三条市はものづくりが強いアイデンティティでありますので、小学校5年生を中心に、鍛冶道場で和釘づくりを体験したり、あるいは三条の歴史を様々な観点から学習したりする機会を意識的につくっていますが、

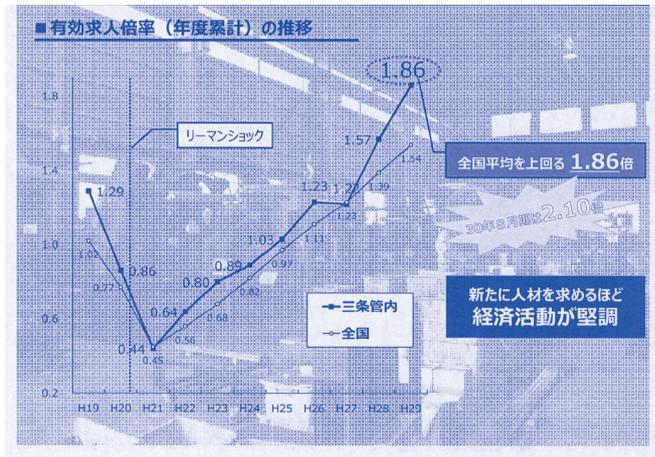
それも考えてみればある一面にすぎず、自分たちのまちはどれくらいの実力があって、どれくらい誇りを持てるまちなのかということについて、総じて知る機会がないのではないかと思います。三条技能創造大学は平成33年度に開学しますが、少なくともそれができていない今、多くの子供たちは、高校を卒業した後、大学であったり、短大であったり、専門学校に進学するときには必ず市外に行ってしまう。自分たちのまちのことを強く認識しないまま外に行ってしまうと、その後、人生の岐路に立った時に、そもそも自分たちのまちのことを知らなければ、三条に戻るということが選択肢の一つになりえないと思い、昨年から高校生向けに自分たちのまちの強みについてお話をする機会を頂戴しています。一応高校生なので真面目な話ばかりしても頭の中に残らないだろうということで、トリビアのようなものを一つ一つ積み上げた資料構成にしています。恥ずかしながら、私もこの資料を作り上げるまで知らなかったことが結構あったものですから、少なからず皆様方にもそうだったんだということを共感していただけるのではないかと思います。今日はあえて高校生向けにお話ししている資料でお話をさせていただきます。



まず、三条、あるいは燕三条はどんなまちですかといったときに、いろいろな側面があるのは十分承知の上ですが、ものづくりのまちということは誰もが否定するところではないと思います。私たちのように金属加工を中心とするものづくりのまちは、産業集積地としてはもはや日本では東京の大田区と大阪の東大阪市と私どもしかないとすることは皆様十二分に御承知のとおりだと思いますし、東大阪市が舞台だった下町ロケットは昨年燕市さんが舞台となり、非常に好評を博したことは皆様方も記憶に新しいところだと思います。そんな中で、ものづくり大国日本が1990年代の中国の社会主義市場経済の導入によって、中国の市場が完全に世界に開かれて、その後世界の工場という位置付けが中国に移り、今では東南アジア、南アジアに移っていく中において、三条を含めた日本全体がものづくりとしての絶対的な地位をどんどん失っていった四半世紀でしたというのがこの資料です。そんな中で皆様方から御尽力いただき、当地域は何とか東大阪市や大田区に見られるような右肩下がり状況ではなく、辛くも踏ん張り続けることができている状態です。バブル崩壊直後には2倍から3倍の開きがあった製造品出荷額も、現時点では大田区を絶対額として追い抜くほどの状態になっています。東大阪市もじわりじわりと落ち込んできていますので、いずれ燕三条地域が浮上していくことができれば東大阪市とも競り合うくらいの実力を、かつてない形の中で手に入れることができるかと高校生に話しています。そして、これからもものづくりの実力を発揮していくためには人手が足りないので、皆さんからはちゃんと燕三条に戻ってきていただき、ものづくりの重要な担い手として活躍してもらわないと困るのです、ということを紹介するわけです。



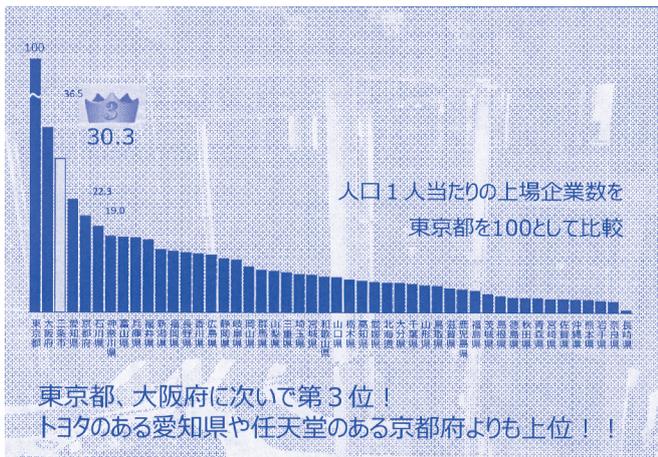
他産地との比較してすごい!



求人倍率がすごい!

まず、上場企業の数から見ていきますと、現時点で上場している三条市に本社を置いている企業さんは、スノーピークさん、アークランドサカモトさん、コロナさん、オーシャンシステムさんの4社です。加えて、三条が創業地であるということを考えますと、コメリさん、ツインバードさん、ダイニチさんもあります。そうした点では、たかだか10万人の人口しかないのにかなりの数の企業が上場している三条市というのは、本当に稀有な存在なんだということを改めて実感するべきだと思います。実は、島根県全県、徳島県全県、佐賀県全県、長崎県全県の上場企業の総数よりも三条市の4社の方が多いのです。長崎と佐賀は県全体で上場企業数は1社しかないのです。10万人都市で4社、三条が発祥の企業を含めると7社も上場企業があるということを、自分たちがまちの実力としてもっと誇りに思うべきだと思いますし、市外に出て自分たちのまちがどんなまちかと聞かれたときに、この話題を出してもいいのではないかと思うくらいの稀有な優位性は、この事実をもって説明ができると思います。ただ、これだけだと絶対数にすぎませんので、一応公平な競争に資するため、人口1人当たりの上場企業の密度がどれくらいなのか調べてみました。47都道府県と三条市を比較すると、東京都と大阪府に次いで三条市は3番目になるわけです。驚くべきは三条市の次が愛知県であるということです。愛知県というトヨタ自動車を有するものづくり大県でさえ人口密度の粗密さからいうと三条の方が上回っています。その次の京都府も皆様方御案内のとおり任天堂であったり、鳥津製作所であったり、京セラであったりと上場企業の宝庫ですが、粗密さでいうならば三条の方が上場企業の密度が濃いということが明らかです。これほどの実力を持っていることを私たちは正々堂々と評価してもいいのではないかと思います。何も自分たちが主観性をもって自分たちのまちはものづくりのまちだと叫んでいるだけではなく

て、このように客観的に見ても優れた企業さんが人口10万人という限られた地域に多く集積しているということを、もっと誇りをもって対外的に喧伝してもいいと思っています。



上場企業数がすごい!

トリビアはどんどん続きます。例えば「TRAIN SUITE 四季島」という豪華クルーズトレインが週に1回か2週に1回東三条駅に停まりますが、四季島のお値段は3泊4日で1,425,000円です。なぜ東三条駅に停まるかというと、新津駅で四季島は停車して、お客さんは全員バスで玉川堂さんへ移動、鍮起銅器を見ていただいてお買い物をしていただきます。その間に四季島は東三条駅に移動し、再び玉川堂さんからバスに乗られたお客さんが今度は東三条駅から四季島に乗っていただいて目的地へ向かうというサイクルに入っているわけです。1,425,000円を払うお客さんを相手にするわけですから、JR東日本も自らの威信をかけて最高のおもてなしをしていかなければなりません。それはソフトの部分もそうですし、装飾品も含めたハードの部分も超一流を集めていかなければお客様の期待に応えられないわけです。そんな贅の粋を尽くした四季島の内装においても、実は我々の地域から随分採用されています。門柱の照明、カップホルダー、花を入れる器、テーブル照明、ティッシュボックス、栓抜き、靴ベラ、カトラリー、こういったものは燕三条からセレクトされて実際に活用されています。彼らだって情緒的に燕三条があるからといって安易に採用してしまいますと、1,425,000円もお金を払ってくださっているお客さんに説明もしえないですので、厳正な評価をした結果、これだけの数のアイテムを我々の地域から輩出しているということは、もっと前向きに捉えてもいいと思いますし、私はここまで採用されていることは知りませんでしたから、こうした事実を皆様と共有できればと思います。

横浜で2010年に開催されたAPECでは、各国政府の首脳に贈呈する公式の贈答品として、燕市さんの磨き屋シンジケートが作ったピアカップが採用されたというのは皆様御案内のとおりだと思いますし、山崎金属さんのカトラリーがノーベル賞授賞式の晩餐会で採用されているということも御存知の方が多いかと思いますが、三条市には別の分野でも誇るべき産業が保内にあります。保内地域は造園、植木の分野の産業集積地になっていますが、実は東京ディズニーシーに植えられている植栽は保内の方々の指導によってあの植栽が生まれているとのことですよ。何気なく見ているのですが、東京ディズニーランド、ディズニーシーも「夢の国」を徹底して演出しなければならないわけですから、その植栽のバランスなどはものすごくこだわるはずですよ。その中で、保内の職人さんたちが東京ディズニーランドを運営しているオリエンタルランドさんの目に留まり指導を依頼され、東京ディズニーシーの植栽をお手伝いしています。また、去年は戊辰150年という一つの節目を迎えました。戊辰戦争最後の激戦地になった五稜郭は、中に入るとかなり手の込んだ庭園がありますが、そこも保内の職人さんが指導しているそうです。私はこの資料を作るまで知りませんでした。そういう側面からもかなり大切な場所に三條の方々の技術が入り込んでいるということを表していると思います。こうしたことが一つ一つ積み重なって、今となっては私たちのまちの技術力、製品が国内はもちろん、国外にも出始めていますし、私たちのものということではなく、ものづくりというデザイン性であったり、ブランド性であったり、そのようなものもようやく海外に認知され始めたと思っておりますが、去年はその象徴的な出来事がありました。それが「ジャパン・ハウス ロンドン」です。ジャパン・ハウスというのは、来年2020年にオリンピック・パラリンピックが東京で開催されるということで、世界の注目が日本に非常に集中しているこのタイミングに合わせて、外務省がロサンゼルス、サンパウロ、ロンドンの3つを拠点に常設的に日本の魅力をPRする施設として昨年設けられたものです。そのうちの1つを占めますジャパン・ハウスロンドンにおいて、日本を紹介する最初の企画展に奈良でも京都でなく私たちの燕三条地域を選んでいただきました。大変誇らしく思っているのは、最初の企画展だったということもありますが、ウィリアム王子自ら足を運んでいただいて、私たちの製品を手で触れていただき、私たちの地元の唯一の酒蔵であります福顔酒造の日本酒で乾杯をしていただいて自ら口に含んでいただいたことで、普通のまちではできないことをいとも簡単に乗り越えてしまったと思

います。2か月間この企画展を開催しましたが、およそ2万5千人の方に来場していただきました。ロンドンの企画展を見たロンドンの鍛冶職人さんが三条にお越しくださり見学をして意見交換をされましたが、今月末にも公立芸術院の教授3人と学生32人が私たちのまちを訪れ、ものづくりに触れていただくことになっています。どうして燕三条が選ばれたのかということですが、ロンドンというのは世界のファッションや流行の中心地に在り続けているわけです。このジャパン・ハウスロンドンの企画の全てをロンドン人チームにプロデュースしてもらっているのがジャパン・ハウスロンドンの特徴です。そのロンドン人チームに私たちを選んでいただいたわけですが、その最大のポイントが「燕三条工場の祭典」でした。工場の祭典を見に来られたロンドン人チームにとっても感動していただいて、企画展の第1弾に私たちの地域を選んでいただいたというのが成功のストーリーになったわけです。燕三条工場の祭典そのものも海外からも評価されるようになってきています。なぜかということ、世界3大デザイン賞の「レッド・ドット・デザイン賞」を実は受賞しています。製品一つ一つをとれば燕三条地域内にも受賞している企業さんがいくつもあるわけですが、イベントそのものが受賞するというのは珍しいわけがあります。このように、世界的な目線で見たとくにも燕三条工場の祭典というのは評価されるべき存在だと目を付けていただいています。

一昨年は竜王戦が開催され、羽生さんが竜王の座を手にとったタイトルが実現しました。なぜ竜王戦が私たちのまちにやってきたのかということ、「竹風駒」を作っている大竹さんが御縁でした。大竹さんのお母さんが100歳を迎えられ、お祝いの賞状をお届けに行ったときに、大竹さんから歩の駒のストラップをいただいたので財布に付けて持ち歩いていました。それを目にした東京の友人になぜで将棋の駒を着けているのか尋ねられたので、三条市内に竹風駒という駒を作っている駒師がいて、羽生さんを始め有名な棋士が竹風駒を持っていると

話しました。その話から、「今度、日本将棋連盟の会長に会わせてあげるよ」と言われて会長と会食をした際、ちょうど竜王戦の会場が一箇所決まっていなかったのではよかったですかと言われ、私はこれほど権威のある対局だとは思わなかったのでお受けしますと答えました。何が言いたいかというと、一つの駒が竜王戦を引き付けるだけの実力を持った職人さんがいろいろな分野で活躍されているのがこの三条市なのかなと思うわけです。

私たちのまちの大きな方向性は何なのかということ、これからは本当に中小企業の時代が到来していると思います。ヨーロッパはそうした道をずっと突き進んできているわけです。ドイツでいうと、アディダスやプーマの本社は人口が2万3千人のまちにあります。イタリアでは、フェラーリが本社を置いているのが1万7千人。ランボルギーニは7千人です。フランスのシャネルが本社を置いているまちは6万1千人、バカラは人口が5千人です。シャブリは2千人、ロマネ・コンティ4百人の村に本社があります。彼らは会社が成長しても、ブランド力が上がったとしても自らが育ったところに居を構え続けて、それによって自分たちの価値を維持し続けているわけです。今ほど申し上げた企業の名前を知らない日本人はいないと思います。でも、その企業は人口規模10万人の三条市よりはるかに小さいまちに所在をして世界に対してものを送り続けているわけです。そのようなことが彼らにできて我々にできない理由はないと思います。三条市はもっと可能性の多いものを秘めたまちだと信じておりますし、行政の立場からそこで頑張ろうとされる皆様を積極的に応援してまいりたいと思っています。

平成最後の年になります31年が皆様方にとりまして素晴らしい年になりますこと、そして三条ロータリークラブさんが益々御活躍をされますことを心から祈念しつつ卓話の結びとさせていただきます。御清聴いただきまして誠にありがとうございました。

次週例会 1月23日

「外部卓話」

三条税務署 署長 宇佐田一雄様

次々週例会 1月30日

「会員卓話」予定

